

恩師より

「想う 25 年間の東住吉高校での出来事たち」

根本 七郎 先生【1967(昭和 42)年 -1992(平成 4)年 保健体育】



1967(昭和 42)年 4 月東住吉高校に転勤となりました。担当授業は 12 期 2 年次、保健体育。当時の体育科は保田、岡田、室井、武田、片山先生。各先生の専門からアドバイスを戴きました。担当クラブは

ハンドボール、柔道。次年度より陸上部。

1968(昭和 43)年より生徒会顧問となり、名高い体育祭を生徒と共に携わりました。次年度より顧問代表となり、生徒と教師集団の調整にあたった事は特別の思い出です。当時の生徒会代表は、学校側と堂々と論陣を張る意気軒高な人たちであふれて頼もしい存在でした。

最初の学級担任は 17 期生。とてもユニークな生徒さんたちでした。卒業後もしばしば学年会を開き、思い出話に花を咲かせたものです。

文化祭での思い出を 2 つ。

①クラスで仮装大会に参加する事に



なり、「わらじ」が必要と。藁を調達し、10 足程編んで渡しました。小学生時代の経験が役に立ちました。

②文化祭当日、私の自宅の庭地が動くので「もぐら」と気づき生け捕りにし、生物部に渡しましたが、いつの間にか死に、『もぐらの一生』の文面と共に、もぐらが展示されました。初めて見た「もぐら」に生徒達はびっくりしたそうです。

1992(平成 4)年 58 歳で、25 年間勤めさせていただいた東住吉高校を退職しました。退職後は竹細工、書道、コーラス等に参加。素敵な人々と出会いがありました。

2020(令和 2)年 11 月「終の棲家」として、藤井寺青山の「有料老人ホーム」に入居。ホームでの生活は、毎月、知的体的なものを含めて「レクリエーション予定表」が渡され、自分の好みに応じて参加、楽しい日々を送っております。ホームの職員の皆様は、優しく接して下さり丁寧に適切に対応していただき、この上なき幸せを感じております。

時折ホームの屋上に出て、金剛山を眺めながら、「風清し…」と校歌を唱えて懐かしんでおります。

現役先生より

「東住吉高校で教員として過ごした 10 年を振り返って」

三野 幸雄 先生【2015(平成 27)年 - 数学】

東住吉高校で教員として過ごした 10 年を振り返ると、特に印象に残っているのは、学年主任を務めた 66 期生との 3 年間です。彼らの高校生活は入学から卒業まで常に新型コロナの影響を受け、行事の中止や分散登校、黙食、オンライン授業など制約の多い日々を強いられました。それでも生徒たちは「今できること」に真剣に取り組み、仲間と支え合いながら前進しました。その姿に幾度となく胸を打たれ、卒業式の日マスク越しに見せてくれた笑顔は、今も深く胸に残っています。



現在は式典を担当する分掌を任せられ、入学式や卒業式の司会を務めています。厳粛さの中にも温かみのある式を目指し、言葉や進行に心を配りながら、生徒や保護者の記憶に残る時間を演出できるよう努めています。人生の節目に立ち会えることは、教員として大きな喜びです。

また、顧問を務めるパソコン部は、二年連続で全国

パソコン技能競技大会に出場しています。昨夏も団体での入賞こそ逃しましたが、個人戦では作表部門で満点を収めた生徒もあり、大きな成果となりました。限られた時間の中で正確さとスピードが求められる競技に挑む過程で、生徒たちは集中力と粘り強さを養い、成長を遂げました。その姿に触れるたび、教員としてのやりがいを強く感じています。

教育とは知識や技術を伝えるだけでなく、生徒一人ひとりの成長を支える営みであることを改めて実感する日々です。挑戦を続ける生徒たちの姿から、私自身もまた多くを学び、日々励まされています。

